

原 著

知的障害者に法律を伝えるためのLL（やさしく読める）マンガの利用 —「わかりやすい旧優生保護法一時金支給法」のパンフレットの制作を通して—

藤澤和子¹⁾*, 榎 朗 兆²⁾

1) 新潟リハビリテーション大学

2) 実用漫画家

〔受付：令和3（2021）年9月29日〕

〔受理：令和3（2021）年11月12日〕

キーワード：LL マンガ，知的障害者，旧優生保護法一時金支給法，わかりやすい情報提供

要旨 2019年4月に成立した「旧優生保護法一時金支給法」は、長年にわたり不妊手術を国家により強制されてきた人たちが、謝罪と救済を受けるための法律である。主な被害者である知的障害者には、現在も不妊手術を受けたことを知らない人や記憶があいまいな人がいるため、誰がどのようなことをされたのかという基本的な情報を具体的な事例で示す必要がある。そこで、「わかりやすい旧優生保護法一時金支給法」のパンフレットに、わかりやすいマンガ表現で描くLL（やさしく読める）マンガを用いて被害者の事例を制作した。LLマンガガイドラインをベースに、マンガの理解度を知的障害者に調査した結果を作品に反映させて、情報を正しく伝えることができるLLマンガを目指した。完成した作品のわかりやすさとマンガを使用したことに対する肯定感について、知的障害者を対象に調査を実施した結果、制作方法がわかりやすさに寄与する可能性と社会的な有用の可能性が考察された。

1. 問題と目的

2019年4月に成立した「旧優生保護法一時金支給法」は、昭和23年から平成8年まで生殖を不能にする手術や放射能の照射を国家により強制されてきた人たちが、謝罪と救済を受けるための法律である。旧優生

保護法に基づく優生手術等を受けた者に、国から一時金（320万円）が支給される。支給には、成立年月から5年という期限があり、厚生労働省に設置された医療、法律、障害者福祉等に関する有識者で構成された審査を受けて認定される必要がある。法律の目的を達成するためには、主な被害者である知的障害者自身に

* Corresponding author:

新潟リハビリテーション大学

〒958-0053 新潟県村上市上の山2-16

Tel : 0254-56-8292

Fax : 0254-56-8291

E-mail : fujisawa@nur.ac.jp

法律の成立と内容及び具体的な手続きが理解され周知されなければならない。しかし、法律を表記する言葉は難しく、通常の方法で当事者が独力で理解することは困難と考えられる。また、旧優生保護法が施行された当初に手術を受けた人はすでに80歳を超えている人が多いうえに、何の手術かを術前に知らされていない人がほとんどであるため、現在も不妊手術を受けたことを知らない人や記憶があいまいな人がいる。そのため法律の内容や手続きをわかりやすく伝えると同時に、誰がどのようなことをされたのかという基本的な情報を具体的に示す必要がある。そのことによって、被害を受けた人が自分の被害と手術の違法性をはっきり認識し、一時金を受け取ることができる。

知的障害者について、精神疾患の診断・統計マニュアル 第5版(2014)¹⁾では、「知的能力障害(知的発達症)」と呼ばれ、発達期に発症し、概念的、社会的、実用的な領域における知的機能と適応機能両面の欠陥を含む障害と定義されている。そのためパンフレットに必要な情報を届けるには、文字を読むこと、抽象的な単語や長い文章の意味の理解、論理的、抽象的な情報内容の理解が難しい特性に配慮して、パンフレットを制作する必要がある。2016(平成28)年4月から「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)が施行され、「障害のある人から何らかの配慮を求める意思の表明があった場合に、負担になりすぎない範囲で、必要な合理的な配慮を行う」義務が公的機関や行政に課せられている。法律についても知的障害者の理解に合わせたわかりやすい情報提供が求められている。しかし、知的障害者の理解に合わせた情報提供の方法については、現在もなおノウハウもなく実践も乏しい(2016,大阪手をつなぐ育成会)²⁾現状にある。

そこで、法律の内容、手続き、問い合わせ先についての情報と、強制不妊手術があったという事実を具体的に知らせるために、当事者が理解しやすい『わかりやすい旧優生保護法一時金支給法』パンフレットを制作した。わかりやすい文章の書き方や写真や絵の使用、レイアウトについてまとめた『知的障害者にわかりやすい情報提供のガイドライン』(2016,大阪手をつなぐ育成会)³⁾を参考に法律の内容や手続き等を表記した。そして、誰がどのようなことをされたのかという基本的な情報は、被害の事実を具体的に知らせるために事例を用いることにした。その表現については、文字を読むことや内容を理解することが難しい障

害特性を考慮して、ストーリーを絵で表現できるマンガを使うことにした。中澤(2002)⁴⁾は、「ストーリー仕立てにすることにより、文脈や背景が分かりやすく内容理解がしやすい」とマンガが子どもたちの学習理解を助けることを述べている。実際に、マンガのわかりやすさと理解しやすさを活かして、さまざまな学習マンガや実用マンガが数多く出版されている。

しかし、これらは、一般の人を読者に書かれているので、知的障害者には難しいマンガであると考えられる。吉村(2018)⁵⁾は、「決してマンガはわかりやすくも簡単でもありません。むしろ文字表現と比べても、多種多様な表現方法がありますし、多様な解釈が可能です。」と述べている。そこで、本研究で制作するパンフレットの情報の受け手は、知的障害者であるため、一般のマンガ表現が理解できない人のためのわかりやすいマンガ表現で描くLLマンガの手法を用いることにした。LLマンガのLLとはスウェーデン語のLättlästの略で「やさしく読める」という意味である。スウェーデンでは、1960年代頃から知的障害などにより本を読むことがむずかしい人にむけた読みやすくわかりやすいLLブックが出版されている(2009,藤澤)⁶⁾。近年は日本でも写真を4コママンガのように使ったLLブック『はつ恋』(2017,藤澤,川崎,多賀谷)⁷⁾『旅行にいこう!』(2019,藤澤,川崎,多賀谷,小安)⁸⁾、ピクトグラムと写真とわかりやすい文を使った『仕事に行ってきますシリーズ』(2019,2020,季刊コトノネ編集部)⁹⁾、¹⁰⁾等が出版され普及し始めている。LLマンガは、同じコンセプトをもつマンガ版だといえる。LLマンガは、研究のために試作された『LLマンガ赤いハイヒール』(2011,都留)¹¹⁾、『はだか男』(2018,松井)¹²⁾、『LLマンガで描くわかりやすい赤ちゃんを産んだ後の避妊』(2020,杉浦,藤澤,松井)¹³⁾の3作品と限られており、法律の理解を補助するために利用した例はない。

そこで、本研究では、LLマンガを使った「旧優生保護法一時金支給法」の事例提供に焦点を当てる。制作途中で知的障害者にマンガの理解度を調査し、その結果を作品に反映させた被害事例をLLマンガで描く制作を試みた。知的障害者による完成したマンガの評価をもとに、作品がこの法律を伝えるための具体的な事例の情報をわかりやすく提供することに寄与できたかをどうかを考察し、今後のLLマンガの課題と可能性について展望する。

2. 制作に関する方法

2-1. 制作方法

LLマンガは、LLマンガガイドライン（2018、都留）¹⁴に従って描かれた。これは、知的障害などによってマンガ独特の表現や約束事が理解しにくい人でも、マンガを読んで楽しめることを目的に、描き方のルールを設定したものである。LLマンガの作品を試作して、知的障害者を対象にどのようなマンガ表現で誤った理解があるのかなどについて調査した結果（2018、藤澤）¹⁵等をもとに検討し作成した。次の12項目から構成されている。

- ①大きく太っている人が急に小さく萎んで変化したりするキャラクターの略画表現を使わないようにする。
- ②汗の絵で不安や恐怖、Zで寝ている状態を表すなどの感情や状態を特有の記号で表現する漫符の使用を控える。
- ③単純なコマ割りを心掛ける。
- ④時系列に沿った丁寧な展開を心掛ける。
- ⑤パターン化したマンガ的な比喩や隠喩の表現の使用は、なるべく避ける。
- ⑥コマごとの情報量を減らし、セリフ表現の文章は短く端的に、絵は見やすいものにする。
- ⑦ナレーションの使用は避ける。
- ⑧ぶち抜き、変形ゴマ、複数のシーンを同一コマで重ねる使用は避ける。
- ⑨吹き出しとキャラクターの位置関係は厳密にする。
- ⑩キャラクターの立ち位置を固定する。
- ⑪視点の交錯を避ける。
- ⑫何らかの形で、読者に「解釈」を要求するような表現には配慮する。

事例は、公開されている実例から選び、絵コンテを描いた。完成までに知的障害者を対象にマンガの理解度調査を2度行い、結果をもとに絵コンテを2度修正した。2度目の修正の際LLマンガ研究会（大学教員、マンガ家等で構成するLLマンガを研究する任意団体）と知的障害者の家族からの意見も加えた。

2-2. 理解度調査方法

2-2-1. 手続き

作画した絵コンテについて知的障害者の理解を調べる理解度調査は、2019年7月～8月に、調査者（筆頭者）が1対1で対面し、対象者にマンガを読んでも

らった後に半構造化面接で実施した。マンガのタイトルは回答のヒントになるので削除した。質問項目は、質問1「何の手術をしたか」、質問2「手術の前に何の手術かを知っていたか」、質問3「どうして子どもができなくなる手術と知ったか」、質問4「事実を知った時の気持ち」、質問5「マンガの感想と変えたいところ」の5項目とし、口頭による回答を調査者が筆記により記録した。

2-2-2. 対象者

絵コンテIとIIの2度の調査で各10名の療育手帳B1（中度）とB2（軽度）をもつ人に実施した。Iの調査とIIの調査の対象者の知的能力と年齢に差が少ないように人選した。絵コンテIの回答者はA～J、絵コンテIIはK～Tとして、どちらも療育手帳の等級区分B1が4名、B2が6名で男女5名ずつ、絵コンテIの対象者は25歳～52歳の10名で、平均年齢と標準偏差値は40.3歳±9.8、IIの対象者は28歳～55歳の10名で、平均年齢と標準偏差値は38.4歳±9.2、療育手帳の等級区分と年齢は理解度調査結果とともに表1と表2に示す。

2-2-3. 倫理的配慮

調査については全国手をつなぐ育成会連合会の協力を得て、会員である知的障害の方を調査対象とした。調査目的と方法、参加は自由意志であること等をわかりやすい言葉で説明し、同意を得た人に調査を実施した。対象者あるいは保護者や支援者が相談を必要とする場合は、相談の後に同意の確認を行った。理解度調査は同意書への記入、完成作品の調査は回答用紙の提出をもって同意とした。全国手をつなぐ育成会連合会の研究倫理審査の承認を受けて実施した。

3. 理解度調査結果とマンガの作成過程

3-1. 絵コンテIの作画

図1に絵コンテIを示す。LLマンガガイドラインをもとに、略画表現、漫符、マンガ的な比喩や隠喩の表現、ぶち抜き・変形ゴマなどを使用せずに作画した。障害者に向けたマンガは、障害の種類や程度によって読みやすさが変わるので、できるだけ多くの当事者を読者対象とすること、見開きでまとめることを考慮し、最も広い層が読みやすい4コママンガの形式を用いることにした。ストーリーの切れ目ごとに4コマで区切り、ミニタイトルを付けた①～③の3話で構成した。



図1 絵コンテI

絵柄はデフォルメが強くない程度のシンプルさで描き、背景や小道具の描写は必要最低限に抑え、見るべきものに焦点が合うように考慮した。その上でマンガの基本にも則り、人物とセリフを追えばストーリーが理解できるように、誰が何を話しているかを明確にした。

また、主人公をすぐに認識できるように、①1コマ目で自己紹介を入れた。10年の歳月を描くため、主人公の変化がわかるように、節目に当たる②1コマ目と、③4コマ目を同じ構図にし、内心のセリフにナレーションを使用して状況や心情の変化を明確にした。ガイドラインではナレーションの使用は避けるとあるため、会話のセリフとして読者に語りかけることも考えたが、登場人物たちがやりとりする会話のセリフとの混乱の余地が生まれると考えた。また、内心のセリフについてはフキダシの形や色を変えるなども検討したが、視覚的な情報量が増えることも考え、コマ数が限られた4コママンガ形式の条件下でスムーズに

テンポよく読むためにナレーションは必要と判断した。

3-2. 絵コンテIの理解度調査結果と修正

3-2-1. 理解度調査結果

絵コンテIに対する理解度調査結果を表1に示した。質問1では4名が正解だった。「医者が切るところを間違っって子どもができない手術をした」という回答も正解とした。誤答は、「おろした」「中絶」が2名、「がん」が1名、「麻酔」1名、「わからない」「手術」が2名であった。質問2では6名が正解だった。質問1の「何の手術をしたのか」の不正解が半数を超えたため、「どうして子どもができなくなる手術と知ったか」と手術名を出す質問3からは実施しなかった。表1には質問2までの結果を掲載した。

3-2-2. 修正

何の手術かがわかることが重要なので、図2で示す

表1 絵コンテⅠの理解度調査結果

回答者	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
性別	女	男	男	男	女	女	女	女	男	男
年齢	49	45	28	33	50	52	48	35	38	25
療育手帳	B1	B2	B1	B2	B2	B2	B1	B2	B1	B2
質問1 何の手術を受けたか	麻酔をうった	医師が切るところを間違えて子どもができない手術をした	手術	子宮を取られた、子どもができない手術	子どもができない手術	子どもができない手術	わからない	お腹に赤ちゃんがいてそれをおろした	がん	中絶をした
質問2 手術前に何の手術をするかを知っていたか	知らなかった	知らなかった	知らなかった	知らなかった		知らなかった			知っていた	知らなかった

空欄は無回答

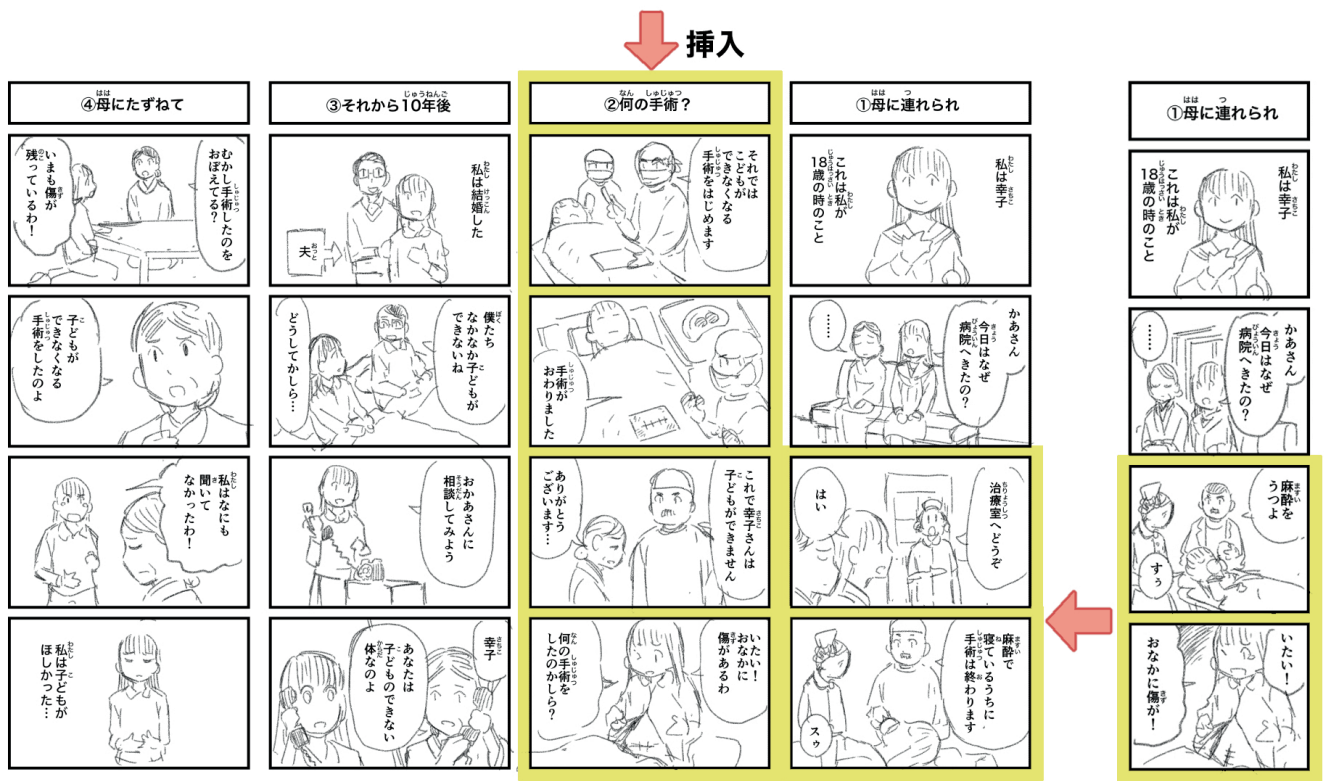


図2 絵コンテⅡ

ように、手術場面を②「何の手術」として加えて、①～④の4話構成に変更した。また、①の3、4コマも、手術をするまでの行動に修正した。②には、手術をしたという事実が印象に残るように、手術台に横たわる幸子にメスを入れようとする医師と手術が終わった報告を医師から聞く母親、そして腹部の傷を描いた。また、医師のセリフで1コマ目に「子どもができなくなる手術」、3コマ目に「幸子さんは子どもができません」と、何の手術であったかを繰り返し入れた。

3-3. 絵コンテⅡの理解度調査結果と修正

3-3-1. 理解度調査結果

絵コンテⅡの理解度調査結果を表2に示した。手術

の目的を問う質問1については、「子どもができなくなる手術」「子どもが産めなくなる手術」と回答した8名を正解とした。質問2については、「知らなかった」「わからなかった」と回答した全員を正解とした。質問3については、「お母さんから聞いた」「聞いてわかった」「お母さん(親)が言った」「3の4コマ目」と回答した6名を正解とした。質問4の事実を知った時の気持ちについては、「子どもがほしかった」「ほしかった」「ショック(大ショック)を受けた」「ショック」「傷ついている」と回答した7名を正解とした。

質問5のマンガの感想と修正箇所を全員に尋ねたところ、「読みやすかった」「これで良いと思った」「すっと読めた」という感想が7名からあった。その理由と

表2 絵コンテⅡの理解度調査結果

回答者		K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T
性別		女	女	女	男	男	男	女	男	男	女
年齢		48	35	38	31	34	55	37	49	29	28
療育手帳		B 2	B 2	B1	B 2	B 2	B1	B 2	B1	B1	B 2
質問1	何の手術を受けたか	子どもができなくなる手術	子どもができなくなる手術	子どもができなくなる手術	子どもができなくなる手術	子どもができなくなる手術	子どもができなくなる手術	子どもができなくなる手術	麻酔かけた	子どもができないので産むことができない手術	子どもが産めなくなる手術
質問2	手術前に幸子は何の手術をするかを知っていたか	知らなかった	知らなかった	知らなかった	知らなかった	知らなかった	知らなかった	知らなかった	知らなかった	わからなかった	知らなかった
質問3	どうして子どもができなくなる手術と知ったのか	聞いてわかった		お母さんから聞いた	3の4コマ目でわかった	お母さんが言った	10年後にわかった。親が言った	お母さんが言った		自分でお腹に傷があったから	お腹に傷があった。
質問4	事実を知った時の気持ち	子どもがほしかった	ほしかった		傷ついている	ほしかった	大ショックを受けた	ショックを受けた。子どもがほしかった			ショック
質問5	マンガの感想、変えたいところ	文字が多い	これで良い	すつと読めた	これで良い	続きが知りたい。①から④と分けてあるから読みやすい	読みやすかった	1話の2と3コマでお母さんの顔が深刻なので、お母さんの病気に幸子さんがついてきたのかと思った。4コマ目で急に麻酔に行くので、わかりにくい		読みやすい。文字がはっきりしているから	読みやすい。4コマになっているから

空欄は無回答

して、2名からは4コマであること、1名からは文字がはっきりしていることが挙げられた。また、文字が多いという感想が1名からあった。わかりにくかった部分については、Qから「1話の3コマ目の診察に呼ばれた絵から4コマ目で麻酔がかかった絵になるのは、急すぎて何があったかわかりにくい。」「2コマ目と3コマ目のお母さんの顔が深刻なので、お母さんの病気の治療に幸子さんがついてきたのかと思った。」という意見があった。

3-3-2. 修正

絵コンテⅢへの修正については、表2の結果と合わせて、LLマンガ研究会からの意見も反映させた。絵コンテⅡの調査結果では、ストーリーの展開の理解が過半数を超えているので、大幅な修正は必要ないと判断し、Qの意見について検討した。「お母さんの病気の治療に幸子さんがついてきたのかと思った。」というQの感想に対して、だれが手術を受けに来たのかをはっきりさせるために、文字数を増やしてわかりやすいセリフにすることに重点を置き、図3の3コマ目の看護師の吹き出しに「幸子さん、治療室へどうぞ」を追加した。さらに、幸子が手術を知らされていない事実と感情を明確にするために、幸子が「私!？」と驚くセリフ(図3)、図4の③4コマ目に「どういうこと!？」を追加した。また、診察に呼ばれたコマから麻酔をかけられたコマへの急な展開を修正するために、図3の4コマ目を幸子が麻酔の説明を受けている

絵に変更した。

LLマンガ研究会で検討したところ、図5③3コマ目の幸子が電話をかけようとしている絵から4コマ目の母親と電話で話している絵へのつながりが難しい、③4コマ目の電話をしている場面から④1コマ目で二人で対面している場面展開が急なので、二人でどこにいるのかわかりにくい、また③4コマ目の分割画面による電話表現は難しいと意見があった。そこで、図4で示すように電話をするストーリーを削除して直接実家へおもむく描写に変更し、④への流れがスムーズになるよう修正した。

さらに、知的障害者をもつ家族から意見をうかがったところ、母親が病院へ連れて行って手術を受けさせたという展開なので家族が不妊手術を望んだ印象が強すぎるという意見がでた。そこで図4④2コマ目の母親の吹き出しに「お役所の人に言われてね」を追加した。

3-4. マンガの完成

完成したマンガを図6に示す。

仕上げ作業にあたっては、見るべき情報に焦点が合うように、人物線は太めで濃く、背景線は薄い色で作画した。

配色については、フルカラーを活かし、人物の区別がついて目で追えるように、それぞれの服装を同じ色合いで統一した。幸子は青系、幸子の母は緑系、幸子の夫は黄色系で描いた。そして過去の話であるイメー

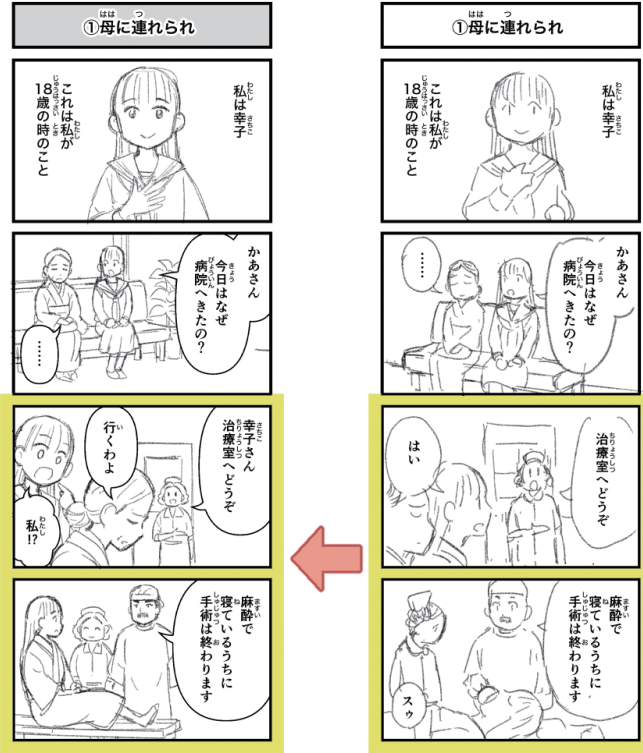


図3 絵コンテⅢの①



図4 絵コンテⅢの③④修正後



図5 絵コンテⅢの③④修正前



図6 完成したマンガ

ジになるように全体的に彩度を低めにし、読者に高齢者も多いことを想定して目が疲れにくい色合いということ意識した。また、パンフレットが白黒コピーされて配布されることがあっても、濃い色で絵が潰れないことも考慮した。

4. 完成作品の評価

4-1. 方法

調査は、性別について男性26名、女性11名、無記入8名、年齢について10歳代1名、20歳代5名、30歳代8名、40歳代6名、50歳代9名、60歳代0名、70歳代1名、無記入15名の45名のひらがなの読み書きができる人を対象とした。2019年11月の全国手をつなぐ育成会全国大会の高等部卒業以降の知的障害者と保護者、支援者が参加する本人大会分科会で実施した。完成したパンフレットと選択肢と自由記述を合わせた調査用紙をそれぞれ一人一枚配布し、パンフレットのマンガを読んだから調査用紙に記入してほしいとわかりやすい言葉で説明した。用紙の質問の漢字にはすべてルビをつけた。

選択肢調査の質問1は、「マンガはわかりやすいですか？」質問2は、「パンフレットにマンガを使ったことについてどう思いましたか？」として、3つの選択肢から1つを選択することをお願いした。

質問1の選択肢は、「わかりやすい」「どちらともいえない」「わかりにくい」、質問2は「よかった」「どちらでもない」「よくなかった」とした。

自由記述の質問は、質問1について「選んだ理由を教えてください。どのようなところがわかりやすかったですか？、わかりにくかったですか？」、質問2について「選んだ理由を教えてください。どのようなところがよかったですか？、よくなかったですか？」、他に「マンガについて思ったことや感じたことを書いてください」とした。

4-2. 結果

選択肢調査の結果を図7と図8に示す。

マンガのわかりやすさについて、わかりやすい30名(67%)、どちらでもない12名(27%)、わかりにくい1名(2%)、無記名2名(4%)となった。

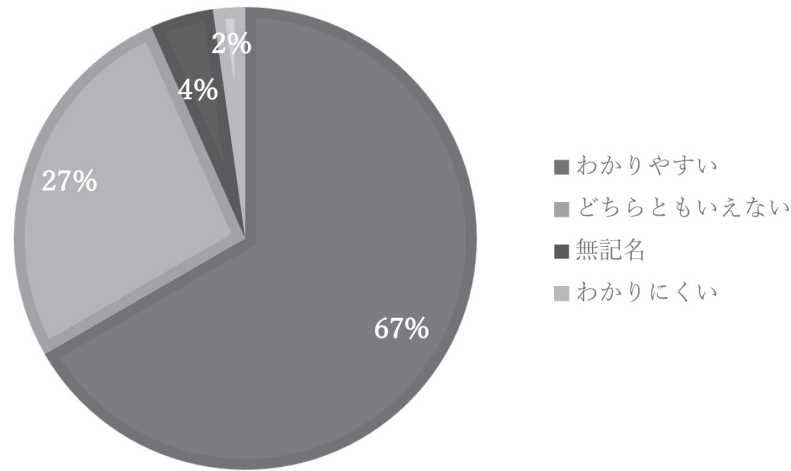


図7 マンガのわかりやすさについての選択肢調査結果

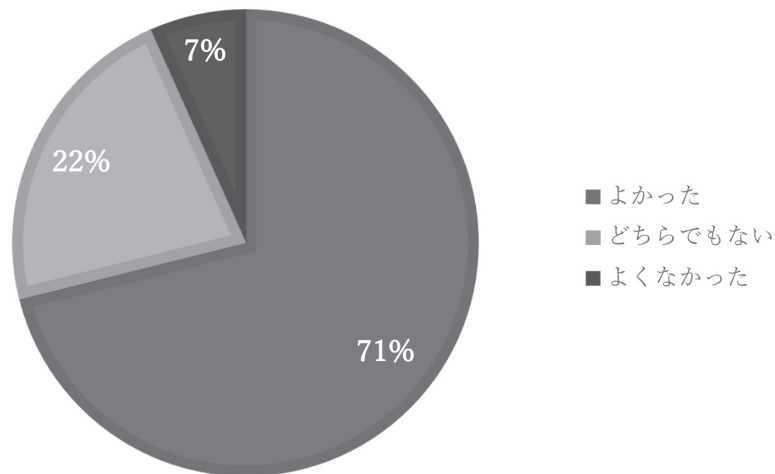


図8 マンガの使用についての選択肢調査結果

マンガの使用について、よかった32名(71%)、どちらでもない10名(22%)、よくなかった3名(7%)となった。

わかりやすさについての自由記述を表3、マンガの使用についての自由記述を表4、マンガについて思ったことや感じたことの自由記述を表5に示す。

わかりやすさの選択理由は、マンガ表現方法と内容理解に分けられ、表現方法として「マンガの絵、絵と文字が大きい、ルビがあった」、内容理解として「全体の流れ、手術中、泣きじゃくるところ、子どもができない理由」がわかりやすかったとあった。わかりにくかったところについては、初めて知った情報だったことや手術をうけた理由を書いてほしかったという意見があった。

マンガの使用がよかった選択理由については、「文章や文字よりマンガがわかりやすい、4コマがわかりやすい、見やすい、読みやすい、気持ちがよくわかっ

た」とあった。よくなかった理由については、「難しい、わかりにくい」「マンガでなくてもよかった」という意見があった。

マンガへの意見感想は、「かわいそう、大変なんだ」という女性の気持ちへの理解やこの事実がほんとうなのかという疑問も出された。他に「多くの人に知ってほしい、これから残してはいけない」という意見があった。なお、回答者によって漢字を使用する人とひらがなだけで表記する人があり、表3、4、5は漢字を入れて表記した。

5. 考察

本研究のマンガ制作の目的は、旧優生保護法一時金支給法の対象となる事例を知的障害者にわかるように正しく伝えることである。完成したマンガの知的障害者の評価では、わかりやすさについて「わかりやすい」が67%、マンガの使用について「よかった」が71%と、

表3 マンガのわかりやすさについての自由記述

わかりやすかったところ

- ・絵と文字は大きく書かれていた。
- ・マンガの絵がわかりやすかった。
- ・きちんとルビがふってあった。
- ・全体の流れがわかりやすかった。(2名)
- ・手術中がわかりやすかった。
- ・くわしくわかりやすく書いてあった。
- ・泣きじゃくるところがわかりやすい。
- ・女の子が結婚して子供がほしいのにできない理由がわかった。

わかりにくかったところ

- ・はじめて知ったことなのでわかりにくかった。
- ・何のために子どもができなくなる手術を受けたのか書いてほしかった。

表4 マンガの使用についての自由記述

よかった理由

- ・見やすかった。
- ・文章でかいているよりマンガの方がわかりやすかった。
- ・文字だけではわからない。
- ・文字とマンガがあるのがよかった。
- ・4コマでわかりやすかった。
- ・読みやすかったけど悲しい所がありました。
- ・子どもができない理由を後から知った女の子の悲しい気持ちがよくわかりました。

よくなかった理由

- ・渡されてもわかりにくかった。
- ・むずかしかったです。
- ・マンガでなくてもよかった。

表5 マンガについて思ったことや感じたことの自由記述

マンガについて思ったことや感じたこと

- ・もっと多くの人に読んでほしいです。
- ・これから残してはいけない。
- ・かわいそうだなと思ったです。
- ・子どもができなくてかわいそう。
- ・女子がひどいめにあっているのがわかった。
- ・大変なんだと思った。
- ・何の理由もなく手術をされた人たちがいたということ？

どちらも7割前後の結果になった。LLマンガガイドラインをベースに描いたことと、情報の受け手である知的障害者自身に理解度を調査し、結果を作品に反映させたことが、知的障害者の主観的な評価の高さに影響した可能性はあると考える。ストーリーやコマのつながりに丁寧さが必要と分析して、絵コンテⅡで手術場面の②を追加し、絵コンテⅢの③で電話で話す場面を削除し実家に訪れる場面に修正して場面がとばないようにしたことが、全体の流れや手術中がわかりやすかったという意見に影響したのではないだろうか。またパンフレットが家族や支援者等の大勢の人の目に触れるものであるため、家族からの意見の反映も必要なことだった。今後制作されるすべてのLLマンガの作品において今回のように理解度調査をすることは現実的には難しいと思われるが、可能な範囲で読者対象となる障害のある人や彼らをよく知る支援者や家族の意見を参考に制作する方法が、とられるべきではないかと考える。

一方で、今後の課題も示唆された。わかりやすさとマンガの使用について「どちらでもない」「よくなかった」と答える人は30%程度あり、理由として初めて知る情報のマンガはわかりにくく、難しく、他の表現でもよかったという意見があることがわかった。今後の作品において、わかりにくいという評価をしっかりと受け止めて、さらにわかりやすい表現を目指すべきであるとする。また、完成作品は主観的な評価であるので、今後は、一般の作画表現の作品と理解度を比較する等の客観的評価を行い、わかりやすさを検証することと、調査においては回答者全員の性別と年齢情報を得ることも課題である。

マンガについての自由な感想では、女性への同情の気持ちや理由もなく手術をされたという事実がほんとうなのかという疑問も出された。これはこのような理不尽なことがあったとは信じられないという気持ちがあつての疑問ではないだろうか。「多くの人に知ってほしい、これから残してはいけない」という意見は、このような人権侵害が今後二度とないように社会の人たちが事実を共有してほしいという知的障害者の願いだと考えられる。

制作方法に関しては、LLマンガガイドラインと知的障害者への理解度調査の反映がわかりやすさに影響を与えた可能性が考察された。一方で、現実的な作画条件によってガイドラインを遵守することの難しさも示したと考える。理解度調査で誤りが多く、修正意見があつたところは、絵コンテⅠで手術の場面が丁寧に

描かれていなかったことであった。LLマンガの『はだか男』のマンガ表現について知的障害者に調査したときも、コマを省略させて物語を展開させる描き方が誤った理解の原因の1つであることを考察しており¹⁵⁾、「時系列に沿った丁寧な展開を心掛ける」重要性が示されていた。しかし、今回のように紙面のサイズやページ数が決められたパンフレットの場合、コマ数には限界があり、ガイドライン通りに描こうとするとコマ数、ページ数が増えてしまう問題が生じる。また、ナレーションの使用についても、パンフレットの条件を考慮したときには必要と判断された。このように実際の作画の条件によってガイドライン通りに描くことに難しさが生じる問題については、今後、さまざまな条件でLLマンガが描かれる中で、ガイドラインの付加条件などを検討していく必要があるだろう。

竹宮は、マンガの果たすことができる社会的役割として「機能マンガ」¹⁶⁾という分野を提唱している。マンガの機能を最大限に使い、ニュートラルに情報を整理、伝達することを重要視し、通常では扱うことが難しく避けられることが多い社会事象や問題を扱うマンガである。読者をその問題に意見がいえるように育てる目的がある。この定義から考えると、本作品は、知的障害者向けの機能マンガといえるのではないだろうか。機能マンガとして描かれた作品には、四日市公害を描いた『空の青さはひとつだけ』(2016, 池田・伊藤)¹⁷⁾、妊婦と医療放射線に関する『幸せの実り』(2015, 大野)¹⁸⁾、『石の綿—終わらないアスベスト禍』(2018, 松田・竹宮)¹⁹⁾がある。その中でアスベストの機能マンガを制作研究した小川と都留(2011)²⁰⁾は、竹宮のいう「機能」について、中核にあるのは、「マンガの顕著な情報伝達力・訴求力である。読者の感覚や感情を直接揺さぶるマンガの強力な訴求力は、単なる「面白さ」「わかりやすさ」ということを超えて、通常は扱いにくく見向きもされないようなテーマの理解を促進し、広く社会問題への対処行動を喚起し、課題解決への指針を示す手段たりうる可能性がある。」と述べている。旧優生保護法一時金支給法のマンガは、その可能性への試みであったと考える。今後に向けて知的障害や自閉症などの障害をもつ人に、最も伝わるマンガの表現方法を1作品ずつ検討することが、LLマンガが障害者の社会事象や問題を扱うマンガとして社会的役割を明確にしていくことにつながっていくと考える。

6. 結論

「旧優生保護法一時金支給法」の支給対象となる被害にあった知的障害者が、この法律を理解して支給を受けられるように、誰がどのようなことをされたのかという基本的な情報についてLLマンガを使って具体的な事例で示した。事例をわかりやすく正しく伝える目的で、LLマンガの描き方をまとめたガイドラインをベースに、知的障害者にマンガの理解度を調査した結果を反映させて制作した。完成した作品について、知的障害者を対象に、マンガのわかりやすさとマンガを使用した肯定感を調べた結果、制作方法がわかりやすさに寄与する可能性と、障害者の社会事象や問題を扱うマンガとして社会的な有用性をもつ可能性が考察された。

本研究には利益相反はない。

謝辞

当パンフレットは、全国手をつなぐ育成会連合会が発行した。

調査に協力してくださいました当会の知的障害の方とご家族に、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

なお、全国手をつなぐ育成会連合会は知的障害者の権利擁護や政策提言、福祉向上のための調査研究、情報提供等を行う知的障害者とその家族と支援者(専門職、市民等)による一般社団法人の全国組織である。

引用文献

- 1) American Psychiatric Association: Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, Fifth Edition, Text Revision. Washington, DC, 2013. 高橋三郎, 大野裕(訳): DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル, 医学書院, 東京, 2014.
- 2) 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会: わかりやすさをめぐる現状, 知的障害者が制度を理解するための情報提供のあり方に関する研究, 厚生労働省平成27年度障害者総合福祉推進事業報告書, 5, 2016.
- 3) 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会: 知的障害者にわかりやすい情報提供のガイドライン, 全国手をつなぐ育成会連合会本人活動支援委員会発行, 2016.
- 4) 中澤潤: 学習マンガ教材の効果に及ぼすマンガ読解力の影響, 千葉大学教育実践研究, 9, 13-22, 2002.

- 5) 吉村和真：本当にマンガはわかりやすいのか？—誰もが楽しんで読めるLLマンガをめざして—, 吉村和真, 藤澤和子, 都留泰作編, 障害のある人たちに向けたLLマンガへの招待, 樹村房, 東京, 2018, 2-15.
- 6) 藤澤和子：知的障害や自閉症の人たちの読書をひらく, 藤澤和子, 服部敦司編, LLブックを届ける—やさしく読める本を知的障害・自閉症のある読者へ, 読書工房, 東京, 2009, 12-18.
- 7) 藤澤和子, 川崎千加, 多賀谷津也子企画・編集・制作：はつ恋, 樹村房, 東京, 2017, 全項92.
- 8) 藤澤和子, 川崎千加, 多賀谷津也子, 小安展子企画・編集・制作：旅行にいこう!, 樹村房, 東京, 2019, 全項106.
- 9) 季刊コトノネ編集部編集・企画・文, 原智彦, 野口武悟監修：仕事に行ってきます オフィスで事務の仕事—潤さんの1日, 埼玉福祉会出版部, 埼玉, 2019, 全項55.
- 10) 季刊コトノネ編集部編集・企画・文, 藤井克徳, 野口武悟監修：仕事に行ってきます うどん屋の仕事—静さんの1日, 埼玉福祉会出版部, 埼玉, 2020, 全項55.
- 11) 都留泰作：LLマンガ赤いハイヒール, 吉村和真, 都留泰作, 藤澤和子, 他編, 赤いハイヒール—ある愛のものがたり, LLマンガ研究会, 京都, 2011, 9-43. Björn Abelin, Lotta Thorsén: De röda akorna-en kärlekshistoria, LL-förlaget, Stockholm, 2002.
- 12) 松井仁美：はだか男, 吉村和真, 藤澤和子・都留泰作編, 障害のある人たちに向けたLLマンガへの招待, 樹村房, 東京, 2018, 38-73. Johan Werlmäster.: En naken karl, LL-förlaget, Stockholm, 1998.
- 13) 杉浦絹子, 藤澤和子編, 松井仁美作画：LLマンガで描くわかりやすい赤ちゃんを産んだ後の避妊, 基盤研究C17K12330 科学研究費助成事業研究成果物, 2020, 全項13.
- 14) 都留泰作：LLマンガのガイドライン—描くための視点と技法, 吉村和真, 藤澤和子, 都留泰作編, 障害のある人たちに向けたLLマンガへの招待, 樹村房, 東京, 2018, 87-98.
- 15) 藤澤和子：LLマンガを読む—知的障害者への調査と評価, 吉村和真, 藤澤和子, 都留泰作編, 障害のある人たちに向けたLLマンガへの招待, 樹村房, 東京, 2018, 55-86.
- 16) 竹宮恵子：社会合意形成を実現するマンガ機能構築, 基盤研究C25340150 科学研究費助成事業研究成果報告書, 1-6, 2016.
- 17) 池田理知子, 伊藤三男編, 矢田恵梨子作画：空の青さはひとつだけ—マンガがたつなく四日市公害, くんぶる, 東京, 2016, 全項157
- 18) 大野和子編, 京都精華大学漫画学部作画：幸せの実り, 基盤研究C24591825 科学研究費助成事業研究成果報告書, 京都医療科学大学, 京都, 2015, 全項47.
- 19) 松田毅, 竹宮恵子監修:石の綿—終わらないアスベスト禍, 神戸大学出版会, 2018, 全項224
- 20) 小川聡, 都留泰作：機能マンガ確立に向けて—神戸大学との共同研究アスベストマンガ制作をとおして, 京都精華大学紀要, 第39号, 76-101, 2011.

Use of LL (lättläst: easy-to-read) manga to help individuals with intellectual disabilities understand the law – Through the production of an easy-to-understand brochure on “the Law on the Payment of a Lump Sum to Individuals subjected to Sterilization under the Former Eugenic Protection Act” –

Kazuko Fujisawa^{1)*}, Rocho Enoki²⁾

1) Niigata University of Rehabilitation

2) Practical Cartoonist

[Received: 29 September, 2021]

[Accepted: 12 November, 2021]

Key words: LL manga, individuals with intellectual disabilities,
the Law on the Payment of a Lump Sum to Individuals subjected to Sterilization under the Former Eugenic Protection Act Provide, easy-to-understand information

Abstract The “Law on the Payment of a Lump Sum to Individuals subjected to Sterilization under the Former Eugenic Protection Act”, passed in April 2019, aims to provide an apology and redress to those who have been forced by the state to undergo sterilization for years. Some of the victims, mainly individuals with intellectual disabilities, do not even know that they have been sterilized or have a vague memory of it. This is why we decided that we should provide them with information on who was targeted and what was done to them, with specific examples. We also wanted young individuals with intellectual disabilities to know the facts about the past. Therefore, in an easy-to-understand brochure on “the Law on the Payment of a Lump Sum to Individuals subjected to Sterilization under the Former Eugenic Protection Act”, a case was illustrated using Lättläst (LL: easy-to-read) manga with easy-to-understand expressions. In the production process, two points were taken into consideration to ensure that the information would be delivered clearly and correctly. The first is that manga was drawn based on the Guidelines for Creating LL Manga, which are rules for drawing manga designed to help people who have difficulty understanding manga’s unique expressions and rules, such as manga symbols and panel layout, to read and enjoy manga. In the second, we investigated the understanding of people with intellectual disabilities about the manga we were in the process of producing. We also requested the opinions of their family members and modified the drawing style of the manga according to the results of investigation. For the completed work, we investigated the understandability of the manga and affirmation of its use among individuals with intellectual disabilities. As a result, the method of production may contribute to its understandability, and it is expected that LL manga may be of social utility.